

原子力の将来と福井大学の役割

福井大学長 児嶋 真平

1. はじめに

内閣府の「原子力委員会長期計画策定会議」(平成16年6月—平成17年9月)
"原子力政策大綱" (第33回会議: 平成17年9月29日確定)

2. 原子力の将来・・原子力政策大綱から

- ・日本は原子力の平和利用に徹することを明記
- ・原子力発電を基幹電源として位置づけ・・電源の30—40%以上を原子力発電で
- ・核燃料サイクルの堅持・・使用済み燃料からプルトニウムを回収してMOX燃料を
使用済み燃料を直接処分しない方針を確認
- ・当面はMOX燃料を用いるプルサーマルを推進(軽水炉で)
- ・2050年から高速増殖炉を商業ベースで導入することをめざす
今世紀末には、すべて高速増殖炉で
- ・既存軽水炉を60年間稼働・・高経年化炉の万全の安全対策
- ・放射線・量子線の医療・食品・品種改良等への利用推進
- ・国と立地地域との連携
- ・その他

3. 福井県の原子力・・エネルギー拠点化計画(平成17年3月)

- ・高速増殖実験炉「もんじゅ」の使命
高速増殖原型炉「常陽」(茨城県大洗町)から
- ・新型転換炉「ふげん」の廃炉研究
- ・高経年化炉の安全研究
- ・陽子線がん治療施設の新設
- ・産官学の連携強化
- ・エネルギー教育の推進

4. 福井大学の役割

- ・大学院工学研究科「原子力・エネルギー安全工学専攻」(平成16年4月設置)
原子力発電の安全性を向上させるための基礎研究と技術開発
原子力立地地域が原子力産業と共生するための研究
原子力産業を支える高度専門職業人を地元で養成
- ・小中高におけるエネルギー・環境教育の推進役(教育地域学部と工学部)
次世代に、原子力への理解を増進する
- ・医学部の高度画像診断技術(CT-PET等)で、陽子線がん治療に貢献
- ・国の原子力政策への貢献・・原子力委員会長期計画策定会議委員
高経年化対策検討委員会委員 など
- ・福井県の原子力安全行政への貢献・・福井県原子力安全委員会委員
福井県高速増殖炉もんじゅ安全性調査検討委員会委員

5. おわりに